



帯広東ロータリー・クラブ会報

[2019-2020年度]

会長/加藤 武志 幹事/角 高紀 会報編集 メディア委員長/加藤 昭治

■創立: 1984年6月15日 ■認 証: 1984年6月18日 ■例会日: 毎週火曜日 12:30~13:30

■事務局: 〒080-0013 北海道帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.(0155)25-7347 ■例会場所: ホテル日航ノースランド帯広 Tel.(0155)24-1234

第1680回例会 (令和元年11月12日㊦ 於 ホテル日航ノースランド帯広)

点 鐘 加藤 武志 会長

開会宣言 西田 重人 S A A

ロータリーソング

奉仕の理想

ゲスト紹介

加藤 武志 会長

うしおだ健康クリニック 院長 うしおだ ひであき 潮田 英明 様

会長挨拶

加藤 武志 会長



皆さんこんにちは、11月も半ばとなり雪の便りもちらほら聞こえるようになりました。今週15日からは本格的な雪が道北中心に降る予報で、道東にも初雪がという事でいよいよ冬支度をしなければならない時期が参りました。さて、先週の例会プログラムでは職業奉仕委員会斎藤委員長から「職業奉仕の理念をどう活かすか」というテーマの元グループ討議がなされました。特に発表はありませんでしたが私達の班でも有意義な意見が多く大変勉強になりました。更にロータリーの行動規範についても少し触れられていましたが、先月10月28日R I 国際ロータリーより行動規範の追加項目がクラブ会長幹事宛にメールが入りました。内容については「ロータリーの会合、行事、及び活動に於いてハラスメントの無い環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらない様確認する」が5番目に追加されたとの事でした。仮にも世界のロータリアンに対し行動規範がなぜと首をかじげたくもなりますが、11月4日の日経新聞にこんな記事がありました、【学びや発・教員の言葉遣い】の一部を紹介、

以下記事による【教師は子どもの環境である】といわれる。身近な大人、中でも教員の言動は小学生の素直な心に大きな影響を与える。最近明らかになった教員間のいじめは最悪のレベルだ。これ程ひどいものは論外だが「教育環境としての教員」には心配なことが多々ある。代表格が言葉の乱れ。職員室でこんなやり取りを耳にすることが増えてきた。「遠足、雨で延期になりそうだよ」「まじかよ?」「書類の提出期限、今日だったよね?」「ヤバい、忘れてた」〇〇さんの絵、めちゃくちゃいいね」「めっちゃいけてるよね」成りたての教員同士のやり取りではない。いずれも学校をけん引する立場にある中堅教員のものだ。テレビ番組でタレントなどが使う言葉の影響なのか。あるいはそうした言葉によって子どもとの距離が縮まる様な気になるのだろうか。他校の若手教員にこの話をしたら「ドキッ。私もすぐにヤバイって言っちゃいます。」などの反応が。「なんでもヤバイやメチャクチャの一言で済ませる習慣は変えた方がいいんじゃないかな。特に子どもの前ではネ」と返した。すると「これから使わないようにします」と宣言。だがその後5分ほどの間に彼女らは何度も「ヤバイ」を口にした。指摘すると「マジですか。メッチャ、ヤバイ、」苦笑いするほかなかった。初任の学校で出会った女性教員の指導は今でも私の目標だ。いつもしっとり、丁寧な言葉遣いが印象的だった。反抗しがちな6年生を前に、決して声を荒げることなく美しい言葉で指導子どもたちはのびのびと育っていた。同僚教員にも同じような丁寧な言葉で接してくれた。自分自身が重要な教育環境であることを忘れずに子どもと関わっていきたい。とありましたが、世界も我々日本国民もテレビにスマートフォンにほぼ、支配されていると言っても過言ではないと思いますが如何でしょうか?私もテレビを否定はしませんけど今から30年前くらい前にテレビの影響で、日本国民一億総白痴になると警鐘を鳴らした評論家がいたと私は記憶に残っていますがテレビ界の言動が世間の常識にな

っている様な気がしてなりません。偉そうな事を言えませんが私達大人が自分自身をマネージメントして、本来あるべき姿勢を貫き通して行くことが務めであり時にクラブの仲間同士が、互いの立ち振る舞いについて話し合う事も奉仕の一つではないかと、この度の行動規範を機に考えた次第です。ちなみに以前テレビ局の人が自分の子供にはテレビを見せない様にしていると聞いたことがあります。私もニュース、スポーツ以外は余り見ません、以上一言会長挨拶と致します、ありがとうございました。

会務報告 角 高紀 幹事

①帯広東RC、年次総会開催のご案内

日時 令和元年12月3日(火) 午後0時30分(例会時)
場所 ホテル日航ノースランド帯広

プログラム 大塚 正昭 出席・プログラム委員長

ゲスト卓話

うしおだ健康クリニック 院長

うしおだ ひであき
潮田 英明 様

1965年生まれ 神奈川県出身

現在、53歳

1984年3月 神奈川県立厚木高校 卒業

1992年3月 筑波大学 医学専門学群 卒業

北海道の自然に憧れ、卒業後、北海道大学小児科 入局
小児科医として、北大小児科、国立札幌病院、帯広厚生病院
函館中央病院、釧路赤十字病院 勤務

その後、北海道勤医協 入職 内科・皮膚科研修を行い、
北海道地域医療に従事

札幌、小樽、釧路、日高、夕張、函館などで勤務

2010年4月 北斗病院 内科医師として勤務 特に糖尿病
に関する医療を担当

2013年5月 北斗病院 院内にて健康教室を開催、市民に
健康の大切さを伝えることにやりがいを感じるようになる。

2016年1月から2年間 毎週火曜日の朝 FM-JAGA 出演

「潮田先生の今日も健康にありがとう」のコーナーを担当

2018年6月 うしおだ健康クリニック

(帯広駅前のぜんりん会館ビル1階) 開業

市民の健康増進活動をさらに進めていきたい。

夫人とお子様2人(17歳 娘・15歳 息子)

趣味：スノーボード、登山、テニス、油絵、風景撮影
健康教室を開催すること

本日は板倉利男会員の紹介

【本日の講演テーマ】

『ネンネンコロリではなく、
ピンピンコロリを
目指しましょう』



私は、アトピー皮膚炎が治療が専門です今日は、老衰についてお話し、天寿を全うできる人はわずかです、ピンピンコロリには知創があります。老いとは10代の春、20代の夏、40代の秋、60歳以上は冬の時代です。



衰弱していく体と最後まで上手に付き合う、健康の大切さ、人生最後の10年間をどのように生きたいか、鎌田實先生はスクワットなどで踵を落とし胸の筋肉

肉を腹筋、3分速歩、3分ゆっくりと歩く。死ぬまで歩くにはスクワットだけすればいいとインターバル速歩を教えてください。寝たきりにならないためには、肉を食べると健康になる、生活習慣病を自分で改善して下さい。映像で5つのポイントを...



謝 辞 加藤 武志 会長

閉会宣言 西田 重人 SAA

点 鐘 加藤 武志 会長

次週プログラム予定

令和元年11月19日(火) 「情報集会報告」
(会員増強・ロータリー情報委員会)